

「第7回 日本栄養改善学会 東海支部会学術総会」の開催報告

平成30年6月10日（日）、第7回日本栄養改善学会 東海支部会 学術総会は、「食によるオーダーメイドの予防と医療を目指した基盤づくり」をテーマに愛知県産業労働センターウイंकあいちにて開催しました。会員の皆様方、ご支援ご協力をいただいた栄養士会、企業・団体等をはじめ多くの方のご尽力により、お陰様をもちまして、165人のご参加を得て、盛会裡に終えることができました。

これもひとえに皆様方のご協力とご支援の賜物と心よりお礼申し上げます。会期中は、不行き届きの点もあり、ご不便・ご迷惑をお掛けいたしましたかと存じますが、何卒、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

食による「健康寿命の延伸」を目指すため、静岡県健康福祉部 理事（健康経営推進担当）の土屋厚子氏に特別講演「健康長寿日本一の挑戦 ～静岡県での取り組み～」を、「ゲノム医療の推進」において、愛知県がんセンター名誉研究所長（三重大学医学部 公衆衛生・産業医学客員教授、三杉クリニック院長）の田島和雄氏に市民公開講座「オーダーメイド予防医療を目指す食生活習慣 ～その光と影～」を講演いただきました。

人間集団と個々人の両方の「食と健康」の専門家である栄養士・管理栄養士にとって、本講演は、実践活動と研究を通じた科学的エビデンスの蓄積、保健・医療・福祉等での実践、若手の育成について意見交換できる基盤（契機）になったと信じております。

私ども中堅に渡していただいた先輩・大先輩の『バトンと襷』を若手にしっかりと託していきます。ゲノム医療は、がん治療だけでなく、多くの生活習慣病において、食事療法、栄養・保健指導による予防に適用されるでしょう。将来、この基盤形成が役立ったと思っただけだと幸いに存じます。

一般演題では、わが国の栄養改善に関する多くの領域より、5題の実践報告と34題の研究報告をご発表いただきました。短い時間でしたが、専門的な質疑応答が活発に行われておりましたことを大変うれしく思います。



末筆となりましたが、再度、皆様の多大なるご支援とご協力を賜りまして本学術総会を終了できましたことに厚く御礼申し上げます。今回、学生会員に学生実行委員として企画・運営の一部を担っていただきました。長時間の緊張状態により精神的にも身体的にも疲弊してはりましたが、専門家になるという意識の向上と責任感の醸成を図ることができたと思います。実行委員の一人一人に深謝いたします。

最後に、皆様の更なるご活躍を心より祈念申し上げます。

第7回大会長

静岡県立大学 食品栄養科学部 教授 栗木清典